

文教経済常任委員会

委員長 青木 照美 委員 濱口 正晴
 副委員長 松井美津子 委員 坂本 早苗
 委員 今村 直登 委員 上田 欣也
 委員 木場田孝幸

平成25年度合志市一般会計補正予算について

(学校教育課)

問 日本語指導員派遣とは。

答 小学校2年生で日本語の不由な中国籍の児童が、合志南小学校へ転入する。授業中、主に国語算数の個人指導を行う。その指導員を派遣する事である。

(農政課)

問 J A 菊池西瓜集出荷貯蔵施設について。

答 入札で当初予算より57・5%減額となった。入札は代行施工方式で熊本県経済連が実施した。安価になったのは、業者の努力によるものである。

平成24年度合志市一般会計歳入歳出決算について

(学校教育課)

問 プール監視安全管理体制について。

答 夏休みのプール解放は、PTAの運営になっている。命に関わる重要な問題なので、基本的対応マニュアルをPTAと協議の上作成する。

問 小学校空調設備について。

答 工事は、児童の授業の迷惑にならないよう夜間、休日、冬休みを活用する。新年度は間違いなく

平成25年度一般会計補正予算について

(まちづくり戦略室)

問 フランス派遣旅費について詳細は。

答 九州バイオクラスター協議会を主体に、九州産業界と共同でオメガ3含有の資料を使った畜産物の実証実験を行ってきた。その資料の国内優先使用権利を得るため職員を派遣したい。

(企画課)

問 コンビニ収納対応システム改修事業委託について、市内では、どのコンビニが利用可能か。

答 コンビニとの直接契約ではなく収納代行業者及びコンビニとの3者契約を結ぶ事で、市内ほとんどのコンビニで利用可能になる。



コンビニ収納

平成24年度一般会計歳入歳出決算について

(財政課)

問 執行残について予算に問題は無かったか。基金積み立てで市民サービスに影響が出ていないか。

答 影響が出ていないと考えている。執行残については、基準は無いが、補正額の増加等いくつかの要因があったと捉えている。基金については、扶助費の伸び、還付金の発生、施設整備や普通交付税の一本算定など合志市の将来を鑑み積み立てを行っている。

(市民課)

問 年度途中での須屋支所移転で影響は無いか。

答 特にトラブルは無いが、駐車場や移転を知らなかったとの声があった。

(環境衛生課)

問 狂犬病予防事業において、接種率が低いと聞かされた状況と未接種への対応は。

答 接種率は、61%で、今後も周知と啓発に努めていく。

(環境衛生課)

問 ゴミ減量化20%を掲げているが現状は増加傾向にある。今以上の努力が必要では。

答 減量化に向けて、分別の更なる細分化や、啓発を行い市民に協力頂けるよう努力していく。

市スポーツ推進委員配置事業の今後の対策は。

(生涯学習課)

答 市開催行事等へスタッフとして協力いただいている。今後はスポーツ推進委員の選任方法や報酬などについて検討する。

(人権啓発教育課)

問 人権啓発運動団体活動補助金交付への指導について。

答 補助金交付要綱、市補助金等交付規則に基づき、関係書類、通帳、領収書、関係文書などの提示を求め、つぶさに確認して改善すべき点を改善指導した。補助金については、その分を減額し交付した。

(建設課)

問 市道の登記事業について。

答 登記については、その都度行っている。要望 過去の未登記物件がかなりあるので、今後発生させないよう執行部に対し要望した。

(都市計画課)

問 市営住宅の空室の増加について。

答 現在、全体で13部屋の空室がある。入居させるための補修費にかなりの額を要する。修繕費の年間予算が300万円しかなく、入居中の住宅補修を優先しているため、空室の補修まで予算が回らない状況である。その原因で増加した。

(反対討論)

人権啓発運動団体への補助金支出に反対する。今の差別解消のやり方は、差別する側を指導するのではなく、国民が悪かったと決め付けて教育している。差別をする側をもっと指導すべきである。

(賛成討論)

日本国内では生まれた場所や外見による差別事象がある。世界ではまだ人種差別が残っている。解放子ども会学習会事業は、必要であり賛成する。

(商工振興課)

問 これまで、多くの費用を投入してきたが、地域ブランド協議会の成果は。廃止も含めて検討すべきでは。



ゴミ収集

答 本来の目的は、農産品や加工品を特産品として合志を広くアピールする事業だが、全市的な活性化に寄与しているとは、言い難い。今後は、本来の目的に向かい努力していく。



平成24年度合志市下水道特別会計歳入歳出決算について

(マンホール振興の苦情について)

問 以前に比べると少なくなっているが、苦情はあっており、上下水道課で調査したり、建設課の道路改良工事に併せて対応している。

(反対討論)

他、税条例の一部を改正する案件2件があり、活発な議論がなされました。

(賛成討論)

平成24年度は、年少扶養控除廃止や、年金の引き下げで市民の生活が苦しい年度になったが、市は財政苦を理由に増税を行ったにもかかわらず、9億6千万円の黒字で、内、5億円が基金繰り入れという、市民に痛みを押しつけた年度決算は認められない。

(反対討論)

平成24年度は、年少扶養控除廃止や、年金の引き下げで市民の生活が苦しい年度になったが、市は財政苦を理由に増税を行ったにもかかわらず、9億6千万円の黒字で、内、5億円が基金繰り入れという、市民に痛みを押しつけた年度決算は認められない。

(賛成討論)

公債費は、現状、実質公債費は低下という結果を残し、財政規律を遵守した年度になった。その状況下で市民サービスを低下させず黒字という事は、評価でき、概ね良好で誠実な予算執行であり認められる。

(反対討論)

他、税条例の一部を改正する案件2件があり、活発な議論がなされました。

(賛成討論)

平成24年度は、年少扶養控除廃止や、年金の引き下げで市民の生活が苦しい年度になったが、市は財政苦を理由に増税を行ったにもかかわらず、9億6千万円の黒字で、内、5億円が基金繰り入れという、市民に痛みを押しつけた年度決算は認められない。

(反対討論)

平成24年度は、年少扶養控除廃止や、年金の引き下げで市民の生活が苦しい年度になったが、市は財政苦を理由に増税を行ったにもかかわらず、9億6千万円の黒字で、内、5億円が基金繰り入れという、市民に痛みを押しつけた年度決算は認められない。

(賛成討論)

公債費は、現状、実質公債費は低下という結果を残し、財政規律を遵守した年度になった。その状況下で市民サービスを低下させず黒字という事は、評価でき、概ね良好で誠実な予算執行であり認められる。

(反対討論)

他、税条例の一部を改正する案件2件があり、活発な議論がなされました。

(賛成討論)

平成24年度は、年少扶養控除廃止や、年金の引き下げで市民の生活が苦しい年度になったが、市は財政苦を理由に増税を行ったにもかかわらず、9億6千万円の黒字で、内、5億円が基金繰り入れという、市民に痛みを押しつけた年度決算は認められない。

(反対討論)

平成24年度は、年少扶養控除廃止や、年金の引き下げで市民の生活が苦しい年度になったが、市は財政苦を理由に増税を行ったにもかかわらず、9億6千万円の黒字で、内、5億円が基金繰り入れという、市民に痛みを押しつけた年度決算は認められない。

(賛成討論)

公債費は、現状、実質公債費は低下という結果を残し、財政規律を遵守した年度になった。その状況下で市民サービスを低下させず黒字という事は、評価でき、概ね良好で誠実な予算執行であり認められる。



ヴィーブル床工事視察



塩湊川浄化センター視察

平成24年度は、年少扶養控除廃止や、年金の引き下げで市民の生活が苦しい年度になったが、市は財政苦を理由に増税を行ったにもかかわらず、9億6千万円の黒字で、内、5億円が基金繰り入れという、市民に痛みを押しつけた年度決算は認められない。